

第105回全国高校野球選手権青森大会



大会第4日

1日の工大一は、青森商に五回コールド勝ち。夏連覇が懸かる八学光星は、好投手を擁する弘前工を下した。工大一は二本木との接戦に勝利。八戸工は粘りを見せたが、強豪の弘学聖愛に屈した。八戸は東義に、大間は弘前東にそれぞれ敗れた。このほか、青森山田と弘前が3回戦に駒を進めた。

第5日の18日は3球場で2回戦8試合を行う。

（取材班）



高校野球 速報

第105回全国高校野球選手権青森大会第4日は17日、六戸メイプルなど3球場で2回戦8試合が行われた。春の県大会を制した第1シ

光星大勝「一戦必勝」

○：八学光星が夏初戦を2本塁打を含む10安打11得点で大勝した。中澤恒貴主将は「厳しい展開になると予想していた。まず一つ取れて良かった」とほっとした表情を浮かべた。

相手先発は最速150km/hの直球を武器とする右腕だったが、変化球中心の配球と分析して「ボール球を振らずにしっかり打つていこう」とチーム内で意識を共有。

2点ヒアイン드의一回、1死満塁で打席に立った中澤は、内に入ってきたスラ



【2回戦・弘前工—八学光星】4回八学光星無死二塁、中澤恒貴（右）が中越えに本塁打を放ち、8-3とする＝六戸メイプル

イターを投手足元へはじき返して同点に。四回には同じスライターを振り抜き、2桁得点の勝利となった。

が、中澤は「チーム全体でまたボール球を振ってしまっている。相手ピッチャーを助けてしまうので、なくしたい」と反省。「先を見ずに一戦必勝で戦う」と次戦へ意気込んだ。